平成 29 年２月６日

各　位

会 社 名　　株式会社オウチーノ
代表者名　　代表取締役社長兼 CEO　　井端　純一
（コード番号：6084　東証マザーズ）
問合せ先　　執行役員 CFO　　村田　吉隆
（TEL. 03-5402-6887）

営業外費用、特別損失の計上および平成28年12月期連結業績予想の公表に関するお知らせ

当社及び当社の連結子会社において、営業外費用、特別損失を計上しましたのでお知らせいたします。

また、平成 28 年 11 月 14 日に公表いたしました「平成 28 年 12 月期第３四半期決算短信[日本基準](連結)」において、未定としておりました平成 28 年 12 月期の連結業績予想を下記のとおり公表することといたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

１．当社における特別損失の計上

（１） 移転損失引当金繰入額、減損損失および保証金償却の計上

当社は、平成 28 年 12 月５日付の「本社移転に関するお知らせ」にて公表しました通り、平成 29 年４月に本社移転を予定しております。これに伴い、移転損失引当金繰入額 14,694 千円、減損損失 13,583 千円および保証金償却 21,914 千円を計上することといたしました。

（２） 関係会社株式評価損および関係会社貸倒引当金繰入額の計上

当社の連結子会社である株式会社スペースマゼラン（以下、スペースマゼラン社）におきまして、後述の「２．連結子会社における営業外費用、特別損失計上」に記載する損失を計上した結果、当社は、関係会社株式評価損 99,999 千円および同社への短期貸付金に対する関係会社貸倒引当金繰入額 68,957 千円を計上することといたしました。

なお、関係会社株式評価損、関係会社貸倒引当金繰入額については、スペースマゼラン社が連結子会社であるため、連結財務諸表上は連結手続きにおいて相殺消去されます。

（３） 固定資産の減損損失の計上

当社が保有する固定資産の一部について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失 6,477 千円を計上することといたしました。

（減損損失計上の対象資産）

場　所	用　途	種　類	減損損失
東京都港区	医師・病院検索サイト「Dr.O-uccino」の事業用資産	器具備品	101 千円
		ソフトウェア	6,375 千円
合　計			6,477 千円

２．連結子会社における営業外費用、特別損失の計上

（１） 当社連結子会社の概要

名　　称	株式会社スペースマゼラン
所　在　地	埼玉県蓮田市末広二丁目３番８号
代表者の役職・氏名	代表取締役　　山下　勇人
事　業　内　容	不動産の売買、仲介、賃貸、管理及び鑑定
資　本　金	100 百万円
設　立　年　月　日	平成 26 年８月６日

（２） 海外不動産の債権に係る為替差損（営業外費用）、貸倒引当金繰入額（特別損失）の計上

平成 28 年 10 月 11 日付の「連結子会社における債権の取立不能又は取立遅延のおそれに関するお知らせ」にて公表しました通り、スペースマゼラン社の Standard Property Group Co,Ltd（以下、Ｓ社）に対するモンゴル国ウランバートル市のアパートメント売買契約に関わる債権 161,902 千円の取立不能または取立遅延のおそれが生じました。

当該債権については、平成 28 年 11 月 14 日付の「連結子会社におけるたな卸資産評価損、貸倒引当金繰入額および為替差損の計上に関するお知らせ」にて公表しました通り、Ｓ社が開示した財務諸表及び為替レートの推移を考慮した上で、平成 28 年 12 月期第３四半期にて為替差損（営業外費用）および財務内容評価法により債権の一部に対する貸倒引当金繰入額（販売費及び一般管理費）を計上しました。

引き続き、平成 28 年第４四半期におきましても、当該債権の法的手続きを含めた回収に努めておりますが、依然としてＳ社の財務内容等に改善が見受けられないことや同社提案の返済スケジュール案が劣後していることなど、総合的に勘案して回収の見通しが極めて困難であると判断されることから、第３四半期決算で計上した為替差損（営業外費用）および貸倒引当金（販売費及び一般管理費）を洗い替えするとともに、当該債権の全額に対する為替差損（営業外費用）および貸倒引当金繰入額（特別損失）を計上することといたしました。

① 為替差損（営業外費用）

未収入金 3,404,943,100MNT※（平成 28 年 12 月 12 日に実施されたモンゴル裁判所での当社とＳ社の和解契約に対する調停の結果、1,300,000 USD に年利 18%の利息を付加した金額を平成 28 年８月 31 日の為替レートで換算し、3,404,943,100MNT として債権額を確定する見込みであります。）を平成 28 年 12 月期の期末時点の為替相場（1USD=116.49 円＝2,487MNT）で評価替えし、当該債権の帳簿価額 161,902 千円に対する為替差損 2,415 千円を計上しました。

※モンゴル国の通貨単位、トゥグルク（MNT は国際通貨コード）。

② 貸倒引当金繰入額（特別損失）

当該債権の帳簿価額 161,902 千円から上記①による為替差損 2,415 千円を控除し、控除後の価額である 159,486 千円の全額を貸倒引当金繰入額として計上しました。

（３）業務提携解消先への貸付金に係る貸倒引当金繰入額（特別損失）の計上

平成 28 年７月 13 日付「業務提携解消に関するお知らせ」にて業務提携解消を公表しました提携先に対し、台湾在住の投資家に向けて日本の不動産を販売するべく、販売支援事業の一環として、スペースマゼラン社より貸付を行っていましたが、当該貸付先の業績低迷により貸付金の回収可能性に懸念が生じたことから、貸倒引当金繰入額 7,900 千円を計上することといたしました。

３．平成 28 年 12 月期の連結業績予想

（１） 平成 28 年 12 月期通期連結業績予想（平成 28 年１月１日～平成 28 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想（Ａ）	―	―	―	―	―
今回予想（Ｂ）	1,108	△117	△126	△383	△299.07
増減額（Ｂ－Ａ）	―	―	―	―	―
増減率（％）	―	―	―	―	―
ご参考：前期実績（平成 27 年 12 月期）	1,522	8	7	△27	△23.25

（２） 業績予想公表の理由等

平成 28 年 12 月期の連結業績予想につきましては、住宅・不動産関連ポータル事業の Web マーケティング施策やプラットフォーム再構築による売上効果、またプロパティ事業における販売用不動産の成約の見極め、さらに連結子会社における債権の取立不能又は取立遅延のおそれが生じた事案など、当社の連結業績予想を合理的に見積もることが困難であったことから未定としておりましたが、各々の見通しにより、連結業績予想の算定に目途がついたことから上記の通り開示いたします。

売上高につきましては、住宅・不動産関連ポータル事業においては Web マーケティング施策やプラットフォームの再構築等に大幅な遅れが生じたこと、インターネット広告代理事業においては業界の競争激化に対し適応できなかったこと、プロパティ事業においては販売用不動産の開発工期が長期化したことや一部の成約が翌期に繰り延べとなったことにより、1,108 百万円となることを見込んでおります。

また、利益につきましては、コスト削減施策として、広告宣伝費の合理化等で一定の成果が得られましたが、予想を上回る減収が生じたことにより、117 百万円の営業損失を見込んでおります。また、「１．当社における特別損失の計上」、「２．連結子会社における営業外費用、特別損失の計上」に記載のとおり、営業外費用及び特別損失の計上により、126 百万円の経常損失及び 383 百万円の親会社株主に属する当期純損失を見込んでおります。

（注）上記の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上